(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号

特許第4839077号
(P4839077)

(45)発行日　平成23年12月14日(2011.12.14)　(24)登録日　平成23年10月7日(2011.10.7)

(51)Int.Cl.		F I		
B65D 33/02	(2006.01)	B65D	33/02	
B65D 83/76	(2006.01)	B65D	83/00	K
B65D 77/06	(2006.01)	B65D	77/06	H

請求項の数 2　(全 10 頁)

(21)出願番号	特願2005-357604 (P2005-357604)
(22)出願日	平成17年12月12日 (2005.12.12)
(65)公開番号	特開2007-15767 (P2007-15767A)
(43)公開日	平成19年1月25日 (2007.1.25)
審査請求日	平成20年3月13日 (2008.3.13)
(31)優先権主張番号	特願2005-166724 (P2005-166724)
(32)優先日	平成17年6月7日 (2005.6.7)
(33)優先権主張国	日本国(JP)

(73)特許権者　591135875
豊村　恵庸
富山県南砺市福光１２８６番地
(73)特許権者　505038612
水波　均
千葉県柏市柏９５７－３
(74)代理人　100090206
弁理士　宮田　信道
(74)代理人　100154760
弁理士　山川　正男
(72)発明者　豊村　恵庸
富山県南砺市福光１２８６番地

審査官　佐々木　正章

最終頁に続く

(54)【発明の名称】詰替用パック保持具

(57)【特許請求の範囲】

【請求項１】

詰替用パック（６）から内容物を注出するための手押しポンプ（７）を取り付けると共に詰替用パック（６）の切り口を部分的に封止する口部（１）と、

該口部（１）に対応する箇所以外の詰替用パック（６）の切り口を封止する肩部（２）と、

詰替用パック（６）の胴体を囲む胴部（３）と、中央部に連続手段（９）を設けた底部（４）と、を備え、

各部（１，２，３，４）は連続的に形成され、連続手段（９）を中心にして前後に重ね合わせ可能な前半分（ａ）と後半分（ｂ）に二分割され、

口部（１）を前後一対の半円筒（１ａ、１ｂ）、

肩部（２）を前後一対の肩桿部（２１ａ、２１ｂ）、

胴部（３）を前後一対の半筒状部（３ａ、３ｂ）、

底部（４）を前後一対の板状体（４ａ、４ｂ）によって各々形成し、

前後一対の半筒状部（３ａ、３ｂ）には詰替用パック（６）を視認可能とする窓穴（３１ａ、３１ｂ）を各々設け、

前記肩部（２）の左右両側には二分割された肩桿部（２１ａ，２１ｂ）同士を締結するための締結手段（５）を設け、

前半分肩桿部（２１ａ）から前半分半円筒（１ａ）にかけての重ね合わせ面側に、

前半分肩桿部（２１ａ）の左側端部から前半分半円筒（１ａ）の左側上端部まで連続し

後側に突出する２本の平行な左側平行リブ（２２Ｌ）と、
前半分肩桿部（２１ａ）の右側端部から前半分半円筒（１ａ）の右側上端部まで連続し後側に突出する２本の平行な右側平行リブ（２２Ｒ）と、を設けると共に、
２本の平行な左側平行リブ（２２Ｌ）の間と、２本の平行な右側平行リブ（２２Ｒ）の間に、後側に向かって開口する凹溝（２３Ｌ、２３Ｒ）を各々形成し、
後半分肩桿部（２１ｂ）から後半分半円筒（１ｂ）にかけての重ね合わせ面側に、
後半分肩桿部（２１ｂ）の左側端部から後半分半円筒（１ｂ）の左側上端部まで連続し前側に突出する１本の左側単リブ（２４Ｌ）と、
後半分肩桿部（２１ｂ）の右側端部から後半分半円筒（１ｂ）の右側上端部まで連続し前側に突出する１本の右側単リブ（２４Ｒ）と、を設け、
左側凹溝（２３Ｌ）内に左側単リブ（２４Ｌ）が、右側凹溝（２３Ｒ）内に右側単リブ（２４Ｒ）が各々挿入可能となることを特徴とする詰替用パック保持具。

【請求項２】
左側単リブ（２４Ｌ）の前側への突出長を、後半分肩桿部（２１ａ）の左側部から後半分半円筒（１ａ）側にかけて徐々に短くし、
右側単リブ（２４Ｒ）の前側への突出長を、後半分肩桿部（２１ａ）の右側部から後半分半円筒（１ａ）側にかけて徐々に短くして、
左右単リブ（２４Ｌ、２４Ｒ）の前側端縁を左右平行リブ（２２Ｌ、２２Ｒ）の後側端縁に対して傾斜してあることを特徴とする請求項１記載の詰替用パック保持具。

【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、シャンプー、リンス、洗剤等の液体を充填した詰替用パックから、手押しポンプにより液体を注出できるようにした詰替用パック保持具に関するものである。
【背景技術】
【０００２】
最近、シャンプー、リンス、洗剤等の液体を内容物とする容器は、環境問題と資源の有効利用の観点から再利用が普及しており、各家庭においては内容物の使用後、詰替用パックを購入し、容器内に詰替用パックの内容物を移し替えて、容器の再利用を行っていた。
【発明の開示】
【発明が解決しようとする課題】
【０００３】
しかしながら、容器内に詰替用パックの内容物を移し替える場合、容器の口部が小さいことから移し替え作業がしづらく手間が掛かると共に、移し替える際に容器を倒したり、内容物を容器の外にこぼしたり、手を汚したりする恐れがあった。また、内容物を全て移し替えることができず、パック内に内容物が残ってしまい無駄が発生する等の様々な問題があった。
【０００４】
そこで、本発明は上記事情に鑑みてなされたもので、詰替用パックそのものを使用できるように工夫したものであり、容器内に詰替用パックの内容物を移し替える煩わしい作業を省くことができる詰替用パック保持具を提供することを目的とする。
【課題を解決するための手段】
【０００５】
上記目的を達成するために、本発明のうち請求項１の詰替用パック保持具は、詰替用パックから内容物を注出するための手押しポンプを取り付けると共に詰替用パックの切り口を部分的に封止する口部と、該口部に対応する箇所以外の詰替用パックの切り口を封止する肩部と、詰替用パックの胴体を囲む胴部と、中央部に連続手段を設けた底部と、を備え、各部は連続的に形成され、連続手段を中心にして前後に重ね合わせ可能な前半分と後半分に二分割され、口部を前後一対の半円筒、肩部を前後一対の肩桿部、胴部を前後一対の

半筒状部、底部を前後一対の板状体によって各々形成し、前後一対の半筒状部には詰替用パックを視認可能とする窓穴を各々設け、前記肩部の左右両側には二分割された肩桿部同士を締結するための締結手段を設け、前半分肩桿部から前半分半円筒にかけての重ね合わせ面側に、前半分肩桿部の左側端部から前半分半円筒の左側上端部まで連続し後側に突出する２本の平行な左側平行リブと、前半分肩桿部の右側端部から前半分半円筒の右側上端部まで連続し後側に突出する２本の平行な右側平行リブと、を設けると共に、２本の平行な左側平行リブの間と、２本の平行な右側平行リブの間に、後側に向かって開口する凹溝を各々形成し、後半分肩桿部から後半分半円筒にかけての重ね合わせ面側に、後半分肩桿部の左側端部から後半分半円筒の左側上端部まで連続し前側に突出する１本の左側単リブと、後半分肩桿部の右側端部から後半分半円筒の右側上端部まで連続し前側に突出する１本の右側単リブと、を設け、左側凹溝内に左側単リブが、右側凹溝内に右側単リブが各々挿入可能となることを特徴とする。

【０００６】

ここで締結手段とは、詰替用パックの切り口を挟んで封止した状態を固定することが可能な手段を全て含める概念であり、例えばスナップ式に嵌め合わせる方法や、ロック式に係合させる方法等を挙げることができる。また締結手段は、詰替用パックの左右両端位置よりも外側に配置されることが望ましく、このようにすれば、締結手段の操作性が向上すると共に、肩部が詰替用パックの幅寸法より長くなることから、詰替用パックの切り口を完全に挟持することができるので、詰替用パック保持具が転倒してしまっても内容物の漏れを確実に防止することができる。底部の連続手段とは、連続手段を基点に二分割される底部を屈曲可能に連続するものであれば、特に限定するものではなく、例えば二分割された底部をヒンジ結合する方法や、丁番等の連結部材を用いて連結する方法、さらには底部の中央部に折り目を設ける方法等を挙げることができる。

【０００７】

肩桿部の左右両側部から半円筒上側部まで連続的に形成される平行リブ及びその間に形成される凹溝と、それらと向かい合って形成される単リブとは、互いに嵌め合うものであればどのような構成であってもよいが、請求項２の発明のように、左側単リブの前側への突出長を、後半分肩桿部の左側部から後半分半円筒側にかけて徐々に短くし、右側単リブの前側への突出長を、後半分肩桿部の右側部から後半分半円筒側にかけて徐々に短くして、左右単リブの前側端縁を左右平行リブの後側端縁に対して傾斜してあれば、詰替用パックを挟んだ際に単リブと凹溝とが肩桿部の左右両側部から半円筒側に向かって徐々に嵌まり合うため、少ない力で容易に嵌め合わせることができるようになり望ましい。

【発明の効果】

【０００８】

本発明のうち請求項１の詰替用パック保持具によれば、まず連続手段を軸にして詰替用パック保持具を前半分と後半分とに開脚し、その片側に詰替用パックを配置した後、開脚していた前半分と後半分とを重ね合わせ、肩桿部左右の締結手段を相互に係合することで、肩桿部の左右両側部から半円筒上端部まで連続的に向かい合って形成される平行リブと単リブとで詰替用パックの切り口を肩部と口部において挟持すると共に、締結手段で挟持状態を固定することが可能となる。また、口部に手押しポンプを螺合することにより、詰替用パックをそのまま使用することが可能となる。その結果、従来のような別の容器に内容物を移し替えるといった煩わしい作業を完全に省くことができ、また、ごみの減量化にも貢献することができる。さらに、詰替用パック保持具が底部で連続しているため、ワンタッチで詰替用パックを保持することができ、取り扱いが非常に簡便となる。その上、窓穴から詰替用パックが判別できる。

【０００９】

本発明のうち請求項２の詰替用パック保持具によれば、一般にプラスチックフィルム製で伸縮性がない詰替用パックを挟み込む際、単リブと凹溝とが肩桿部の左右両側部から半円筒側に向かって徐々に嵌まり合うため、単リブの後側端縁と平行リブの前側端縁とが平行に形成されている場合に比べてより少ない力で容易に嵌め合わせることができる。

【発明を実施するための最良の形態】

【００１０】

本発明の詰替用パック保持具の具体的な構成について、各図面に基づいて説明する。

【００１１】

図１（ａ）（ｂ）は詰替用パック保持具の第１実施形態を示すものである。本発明の詰替用パック保持具は口部１と、肩部２と、胴部３と、底部４とから構成され、各部１，２，３，４を合成樹脂により一体的に形成すると共に、図２及び図３に示すように、底部４の中央部には屈曲可能となる連続手段９を備えるもので、連続手段９としてヒンジ４２を一体に形成し、ヒンジ４２を軸に各部１，２，３，４がそれぞれ前半分ａと後半分ｂとに二分割される構成をなしている。底部４にヒンジ４２を一体形成することにより、一体の金型で詰替用パック保持具を成形することができるため、組立が不要となり、成形を簡略化することが可能となる。その結果、詰替用パック保持具を安価に提供することができる。

【００１２】

口部１は一対の半円筒１ａ，１ｂからなり、底部４のヒンジ４２を軸にして各半円筒１ａ，１ｂを重ね合わせることで円筒形状となるものである。各半円筒１ａ，１ｂの外周側に螺旋状の雄ネジ１１を設け、内周側に周方向の突起部１２が複数設けてある。

【００１３】

肩部２は、図４（ａ）に示すように、各半円筒１ａ，１ｂの基部分から一体に形成されており、一対の肩桿部２１ａ，２１ｂと、各肩桿部２１ａ，２１ｂの左右両端に設ける締結手段５とから構成される。

前側の肩桿部２１ａの左右両側部から半円筒１ａ上端にかけては左側と右側に、図２、図４（ｂ）及び図５に示すように、後側の肩桿部２１ｂ及び半円筒１ｂに向かって突出する２本の平行な平行リブ２２Ｌ，２２Ｒが各々連続的に形成され、左側と右側において２本の平行リブ２２Ｌ，２２Ｒの間に後側の肩桿部２１ｂ及び半円筒１ｂに向かって開口する凹溝２３Ｌ，２３Ｒが各々形成されている。また、後側の肩桿部２１ｂの左右両側部から半円筒１ｂ上端にかけては左側と右側に、対応する凹溝２３Ｌ，２３Ｒ内に挿入可能な単リブ２４Ｌ，２４Ｒが連続的に形成されている。なお、これら平行リブ２２Ｌ，２２Ｒ及び単リブ２４Ｌ，２４Ｒの左右両端間の長さは、詰替用パックの横幅よりも長く形成されている。

このように、一対の肩桿部２１ａ，２１ｂから半円筒１ａ，１ｂへかけての一方側に平行リブ２２Ｌ，２２Ｒを、他方側に単リブ２４Ｌ，２４Ｒを形成することで、各肩桿部２１ａ，２１ｂ及び半円筒１ａ，１ｂの間に詰替用パックを挟んで噛み合わせた際に、詰替用パックが平行リブ２２Ｌ，２２Ｒ及び単リブ２４Ｌ，２４Ｒに沿って強固に挟持されるため、詰替用パックの切り口を確実に封止することができる。また、平行リブ２２Ｌ，２２Ｒ及び単リブ２４Ｌ，２４Ｒを各半円筒１ａ，１ｂの上端にまで形成しているため、口部１においても詰替用パックを強固に挟持することができる。

【００１４】

締結手段５とは、図４（ａ）（ｂ）に示すように、スナップ式に各肩桿部２１ａ，２１ｂを締結するものであり、一方の肩桿部２１ｂの左右両端にはロック部５１を、他方の肩桿部２１ａの左右両端にはロック部５１を受け入れ係合するようになっているロック係合部５２を、それぞれ外側に向かって突出するように形成してある。このように構成すれば、各肩桿部２１ａ，２１ｂをスムーズに締結させることができると共に、肩桿部２１ａ，２１ｂのリブ構造における詰替用パックの挟持状態を確実に固定することができる。締結手段５を解除する場合は、ロック部５１を摘み弾力を利用して外側へ押すことにより、ロック係合部５２から開放されて締結が解除される。締結する場合には、ロック係合部５２をロック部５１へ弾力を利用して押し込むことにより完了する。

【００１５】

胴部３は、一対の肩桿部２１ａ，２１ｂの下端部分から一体に形成される一対の半筒状部３ａ，３ｂであり、半筒状部３ａ，３ｂの上部形状は下方に向かって末広がり状になっ

ており、下部形状は半筒状になっている。また、外部から胴部３内に収容する詰替用パックが判別できるように、各半筒状部３ａ，３ｂには窓穴３１ａ，３１ｂが形成されている。さらに、図６に示すように、各半筒状部３ａ，３ｂを重ね合わせた際に、各半筒状部３ａ，３ｂがずれたりすることを防ぐために、一方の半筒状部３ａの左右両端部が薄肉になるように内側を切り欠いて内側切欠部３２とし、他方の半筒状部３ｂの左右両端部が薄肉になるように外側を切り欠いて外側切欠部３３とし、重ね合わせた際に内側切欠部３２と外側切欠部３３とが係合するようになっている。

【００１６】

底部４は、図７に示すように、一対の半筒状部３ａ，３ｂの下端部分に一体に形成される略半楕円形状をなした板状体４ａ，４ｂであり、各板状体４ａ，４ｂは中心部で折り曲げ自在となるようにヒンジ４２で連結されており、各板状体４ａ，４ｂとヒンジ４２は一体に形成されている。板状体４ａ，４ｂの下面には、前半分ａと後半分ｂとの開閉方向に平行する下向溝４１が形成されており、床面等に直立させた際の詰替用パック保持具の下端部の通気性や水はけ作用等を良好にしている。また、板状体４ａ，４ｂに開けられた排水孔４３により内部にたまる水が排出される。

【００１７】

図８は本発明の詰替用パック保持具の使用状態を示すものである。詰替用パック保持具の内部にシャンプーの詰替用パック６を収納する場合、まず、肩部２の締結手段５を解除し、底部４のヒンジ４２を軸にして詰替用パック保持具を前半分ａと後半分ｂとに分割し、略平行状態になるまで開脚し、内部に詰替用パック６を収納する。この際、詰替用パック６を底部４に載置させることができるので、詰替用パック６の起立状態が保たれて安定に収納することができる。次に、肩部２の一対の肩桿部２１ａ，２１ｂを重ね合わせて詰替用パック６の上方部分を挟持し、肩部２の締結手段５で各肩桿部２１ａ，２１ｂを締結することにより、挟持状態を固定する。そして、肩部２から上方側に飛び出た詰替用パック６の上端部分をはさみ等で切り取り、手押しポンプ７の吸い込みノズル７１を口部１から詰替用パック６内に挿し込む。最後に、手押しポンプ７のキャップ部７２を口部１に螺合させることで、詰替用パック６の保持が完了する。

【００１８】

本発明の詰替用パック保持具内に詰替用パック６を保持して使用することにより、詰替用パック６をそのまま使用できるので、詰替用パック６の内容物を他の容器に移し替える煩わしい作業を省くことができると共に、詰替用パック保持具が底部４のヒンジ４２を軸に前半分ａと後半分ｂとに分割可能になっているので、口部１及び肩部２を開くだけで詰替用パック６を内部に容易に収納することができる。また、肩部２のリブ構造と締結手段５と口部１に手押しポンプ７を螺合することによって、詰替用パック６を確実に挟持して固定することが可能となり、詰替用パック６の切り口を確実に封止することができる。また、口部１の内周壁に形成した突起部１２により、口部１に対応する詰替用パック６の切り口部分も確実に挟持することができる。さらに、平行リブ２２Ｌ，２２Ｒと単リブ２４Ｌ，２４Ｒを詰替用パック６の横幅よりも長く形成してあるので、口部１に対応する部分以外の詰替用パック６の切り口を完全に封止することができる。この結果、使用中に詰替用パック保持具が転倒しても、内容物の漏れを完全に防ぐことができる。また、メーカによって詰替用パック６の大きさが異なり、例えば詰替用パック６の大きさが小さく、詰替用パック６が肩部２に吊り下げられる状態で挟持された場合でも、内容物の重みで肩部２から外れてしまうことを確実に防ぐことができる。

【００１９】

図９は詰替用パック保持具の第２実施形態を示すものであり、単リブ２４Ｌ，２４Ｒの突出高さ（前側への突出長）が肩桿部２１ｂの左右両側から半円筒１ｂ側にかけて徐々に低く（短く）なるように形成されている。

このように単リブ２４Ｌ，２４Ｒの前側の端縁を平行リブ２２Ｌ，２２Ｒの後側の端縁に対して傾斜するように形成することで、一般にプラスチックフィルム製で伸縮性がない詰替用パックを挟み込む際、単リブの高い部分から徐々に嵌まり合うため、単リブ２４Ｌ

，２４Ｒの前側の端縁と平行リブ２２Ｌ，２２Ｒの後側の端縁とが平行に形成されている場合に比べてより少ない力で容易に嵌め合わせることができる。なお、単リブ２４Ｌ，２４Ｒの前側の端縁の傾斜は上記形態に限られず、平行リブ２２Ｌ，２２Ｒの後側の端縁と平行でなく高い部分から徐々に嵌まり合うものであればどのような形態であっても良い。

【００２０】

図１０（ａ）（ｂ）（ｃ）は詰替用パック保持具の第３実施形態を示すものであり、第１及び第２実施形態と相違するところは、胴部３である一対の半筒状部３ａ，３ｂの左右両端にも締結手段８を備えている点である。締結手段８とは、肩部２に備える締結手段５と同様にスナップ式に半筒状部３ａ，３ｂを締結するものであり、図１０（ｃ）に示すように、一方の半筒状部３ａの左右両端にはロック部８１を、他方の半筒状部３ｂの左右両端にはロック部８１を内部に受け入れて係合するようになっているロック係合部８２を、それぞれ外側に向かって突出するように形成してある。このように胴部３にも締結手段８を備えることにより、詰替用パック保持具の強度を向上させることができる。締結手段８を解除する場合は、ロック部８１を内側に向かって押した後、さらに後方へ押すことにより、ロック係合部８２から開放されて締結が解除される。締結する場合には、ロック部８１をロック係合部８２内へ弾力を利用して挿し込むことにより完了する。

なお、胴部３に備える締結手段８は、上記構成のものに限定されるものではなく、肩部２に備えた締結手段５と全く同じ構成のものを備えても勿論よい。

【００２１】

なお、連続手段９のヒンジ４２は、板状体４ａ，４ｂの全幅方向に設けることも可能であるが、図２のように幅方向の数箇所に設けることも可能である。

また、一方の肩桿部２１ａから半円筒１ａに及ぶ平行リブ２２Ｌ，２２Ｒと凹溝２３Ｌ，２３Ｒとを、他方の肩桿部２１ｂから半円筒１ｂに及ぶ単リブ２４Ｌ，２４Ｒと反対に設けることも可能である。

さらに、平行リブ２２Ｌ，２２Ｒの前側の端縁を、単リブ２４Ｌ，２４Ｒの後側の端縁に対して傾斜させることも可能である。

また、一方の肩桿部２１ａの左右両端に形成するロック係合部５２と、他方の肩桿部２１ｂの左右両端に形成するロック部５１を反対に設けることも可能であるし、各肩桿部２１ａ，２１ｂの左右両端にロック部５１とロック係合部５２をそれぞれ互い違いになるように設けることも可能である。

さらに、板状体４ａ，４ｂの下面に下向溝４１を設ける代わりに、突条を設けても同様の目的を達成することが可能である。

【図面の簡単な説明】

【００２２】

【図１】（ａ）及び（ｂ）はそれぞれ、本発明による詰替用パック保持具の第１実施形態を示す正面図及び側面図である。

【図２】第１実施形態の展開図である。

【図３】第１実施形態の展開断面図である。

【図４】（ａ）及び（ｂ）はそれぞれ、詰替用パック保持具の結合時及び分離時の平面図である。

【図５】図４（ｂ）のＡ－Ａ断面図である。

【図６】胴部の係合状態を示す横断面図である。

【図７】底部を示す平面図である。

【図８】第１実施形態の使用状態を示す正面図である。

【図９】本発明による詰替用パック保持具の第２実施形態の分離時の平面図である。

【図１０】（ａ）、（ｂ）及び（ｃ）はそれぞれ、本発明による詰替用パック保持具の第３実施形態を示す正面図、側面図及び胴部の締結手段を示す斜視図である。

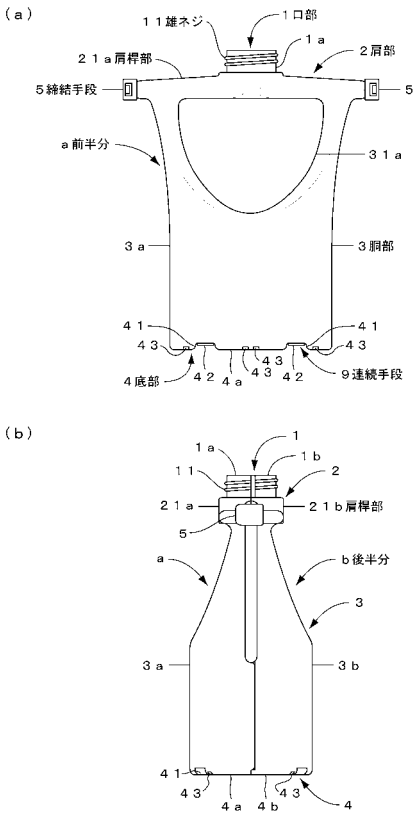
【符号の説明】

【００２３】

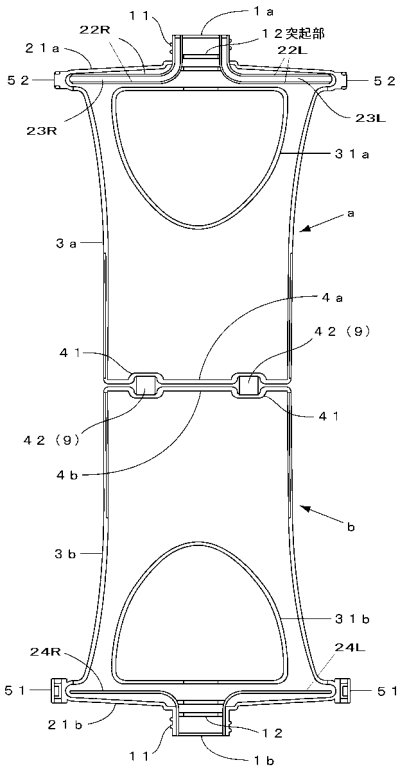
１　口部

１ａ，１ｂ　半円筒
２　肩部
３　胴部
４　底部
５　締結手段
６　詰替用パック
７　手押しポンプ
９　連続手段
１１　雄ネジ
１２　突起部
２１ａ，２１ｂ　肩桿部
２２Ｌ，２２Ｒ　平行リブ
２３Ｌ，２３Ｒ　凹溝
２４Ｌ，２４Ｒ　単リブ
３１ａ，３１ｂ　窓穴
ａ　前半分
ｂ　後半分

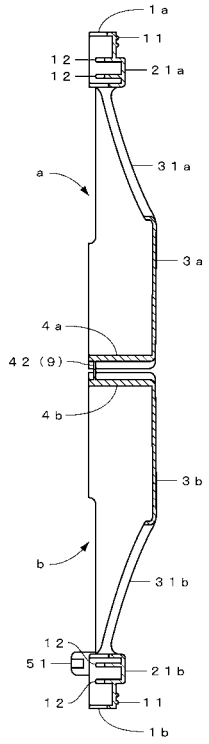
【図１】



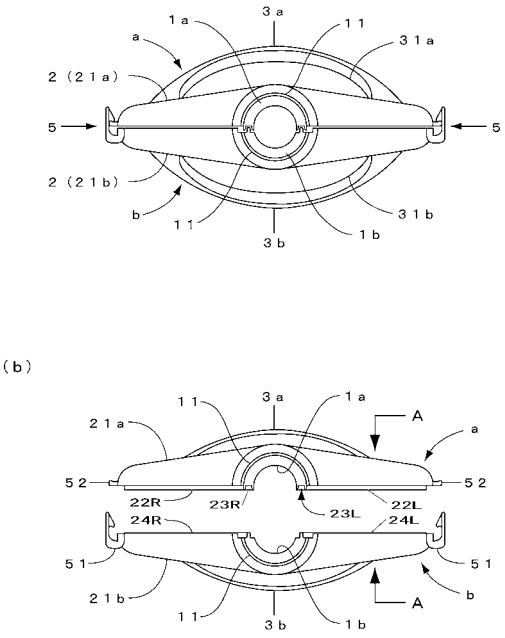
【図２】



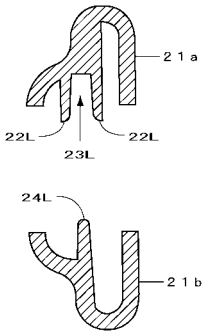
【図３】



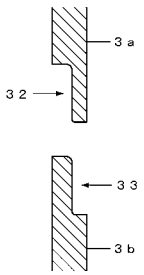
【図４】



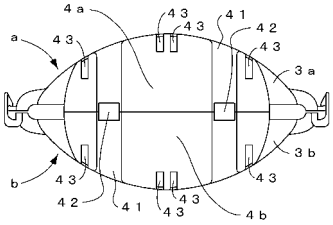
【図５】



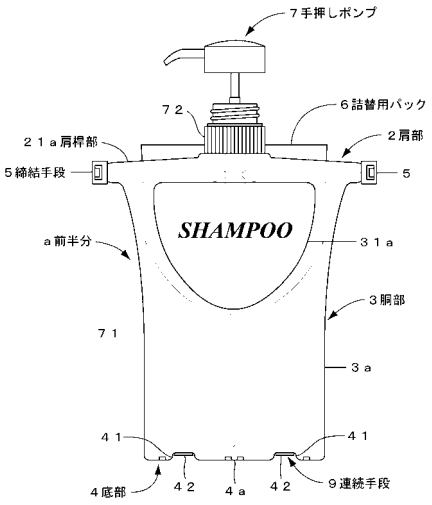
【図６】



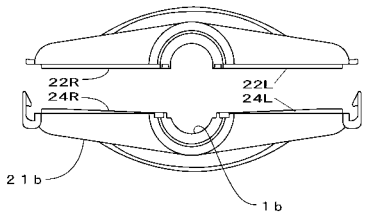
【図７】



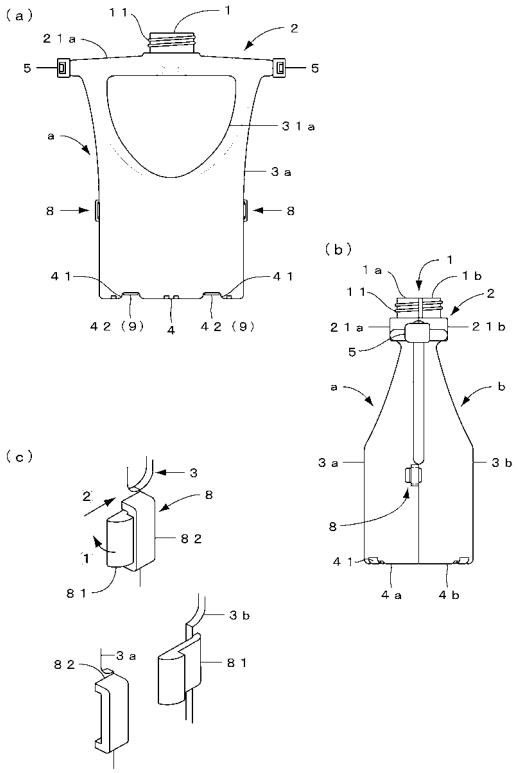
【図８】



【図９】


22R
24R
22L
24L
21b
1b

【図１０】


(a)
11
1
21a
2
5
5
31a
a
3a
8
8
41
41
42(9)
4
42(9)
(b)
1a
1
1b
11
2
21a
21b
5
a
b
3a
3b
8
41
4a
4b
(c)
3
2
8
82
1
81
3b
82
3a
81

フロントページの続き

(56)参考文献 特開平１１－２３６０８４（ＪＰ，Ａ）
実開平０１－１７７１３７（ＪＰ，Ｕ）
実開平０２－０３４４５１（ＪＰ，Ｕ）

(58)調査した分野(Int.Cl.，ＤＢ名)
Ｂ６５Ｄ　３３／０２
Ｂ６５Ｄ　７７／０６
Ｂ６５Ｄ　８３／７６